

國學院大學學術情報リポジトリ

令和元年度大学院特定課題研究の研究成果報告書： 江戸期『論語』訓蒙書の研究

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西岡, 和彦, 石本, 道明, 青木, 洋司, 大貫, 大樹 メールアドレス: 所属: |
| URL | https://doi.org/10.57529/00001518 |

令和元年度 大学院特定課題研究の研究成果報告書

研究課題：江戸期『論語』訓蒙書の研究

研究代表者：西岡 和彦

共同研究者：石本道明、青木洋司、R.A.（國學院大學大学院 リサーチ・アシスタント）
大貫大樹

研究成果

特定課題研究「江戸期『論語』訓蒙書の研究」は、2年目である。初年度に引き続き、「訓蒙書」の概念を明確化するため、江戸期の『論語』関係書を網羅的に調査し（「研究対象文献目録稿」）、かつ視野の偏向や調査の遺漏を最小限にするため、江戸期の四書研究を中心に先行研究を検討した（「研究対象文献先行研究目録」単行本の部・雑誌論文の部）。以上の詳細は、中山ひかり「江戸期『論語』訓蒙書先行研究概観」参照。

江戸期に出版された『論語』関係書には、白文に総ルビや返り点等を施し、書き下しに改め、訳文や語釈を加え、さらに明朝の書籍などを参考に絵図を入れるなど、現代の注釈書以上に工夫が施された初学者向け用の訓蒙書が見られる。そのほかに、学習経験者や有識者であっても京都や江戸等に遊学して儒者等に直接師事出来ない、いわゆる高度な知識欲を持つ読者を対象にした、自学・独習向けの注釈書や工具書等も出版された（「訓蒙書」の分類は、石本道明「江戸期『論語訓蒙書』の概念と範囲」『報告書 第一集』参照）。後者は、専門書ながら、あくまで独習できるよう工夫がなされているため、いわゆる遠隔授業の代用でもあったといえよう。その代表書が、崎門学派の講義録である。崎門学派の講義録は、講師の講義をそのまま筆録したものであるため、書を通じて対面教育を受ける型になっている。すなわち、尊師の講義を間近で受講できる利点があり、それを意識的に作成したともいえる。そのため尊師の講義を興味本位で受講されることが忌み嫌われ、次第に普及が制限されるようになったと思われる。

今回から『報告書』に「江戸期『論語』訓蒙書年表稿〈天正十一年から元禄元年〉」を加えた。これは前掲石本による「訓蒙書」分類に準じて、天正十一年から元禄元年までを、0期（成立前史）とI期（成立期）の二区分にして、時系列に整理したものであり、その成果も報告した（大貫大樹「同」解説参照）。

さて、令和元年度は、15回の研究活動と5回の研究機関・文庫調査を実施し、その成果を『報告書 第二集』にまとめるとともに、個別に学会発表や論文発表を通じての成果報告も行った。

研究機関ならびに文庫の調査は、以下の通りである。

- ① 国士舘大学中央図書館所蔵楠本文庫（東京都、平成31年3月26日）
- ② 東京都立中央図書館所蔵青淵論語文庫（東京都、令和元年8月21日）
- ③ 東北大学附属図書館所蔵狩野文庫（宮城県、令和元年9月5日～7日）
- ④ 宮城県図書館（宮城県、令和元年9月5日～7日）
- ⑤ 名古屋市蓬左文庫（愛知県、令和元年11月2日～3日）

個人の成果発表は、以下の通りである。

【口頭発表】

石本道明「中村惕齋『論語示蒙句解』—江戸期論語訓蒙書の研究—」（日本漢文教育学会第35回大会、2019）

青木洋司「毛利貞齋『論語集註俚諺鈔』について—明代学術との関係を中心として—」（日本儒教学會2019年度大会）、

「和田静観窩『論語序説諺解』小考」（國學院大學中國學會第217回大会、2019）

大貫大樹「江戸期『論語』訓蒙書の変遷—天正年間から元禄元年を中心に—」（令和元年東洋文化談話会発表大会、2019）

柴崎一孝「江戸期『論語』訓蒙書の研究—中根鳳河『論語徴渙』を端緒に」（第6回南开大学—國學院大學 大学院生・若手研究者学術フォーラム東アジア文化研究国際シンポジウム、2019）

【論文】

石本道明「中村惕齋『論語示蒙句解』小考—学問は人格の陶冶のために—」（『新しい漢字漢文教育』第69号、2019）

青木洋司「和田静観窩『論語序説諺解』小考」（『國學院大學中國學會報』第65輯、2019）

「毛利貞齋『重改論語集註俚諺鈔』について—引用諸註を中心として—」（『日本儒教学会報』第4号、2020）

その他、Webサイト（URL：<http://kunmou.info/>）運用を開始した。詳細は『報告書第二集』（篠原泰彦「ウェブサイトでの版本公開について」）に明記している。

以上である。